

(召天者記念礼拝)

* 「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル11:1) 「望んでいる事がら」「目に見えないもの」は天国のことである。信仰によって天国が保証され、天国を確信することができるのである。「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。(ヘブル12:1)

「多くの証人」とは、信仰によって天国を保証されている人たちのこと。旧約の時代から、新約の時代、そして今にいたるまで信仰を持って天に召された多くの人たちが私たちを取り巻いている、と暖かいことばが私たちに向けられている。

* 私たちが一番望んでいることは何か。死んだら終わりだから毎日地上で楽しく、豊かに過ごすことだろうか。死は永遠のいのち、天国への入り口である。また、永遠の滅びへの入口になるかもしれない。神がともにいる光り輝くところへいきたいか、それとも、神がおられない暗黒のところへ行きたいかである。

* 人生はよくマラソンに譬えられる。私たちは天国を望みつつ、地上で走り続けるのである。そのとき、重いものを身に着けていると息切れがする。同じように、地上の競争で走り続ける秘訣は「重荷を捨てる」ことである。不安、恐れ、苦しみ、痛みなど。走りを邪魔するものは自分の中の欲望でもある。また、「まつわりつく罪を捨てる」ことと言われる。私たちは、思いや言葉や行いで、人に対して、神に対して罪を犯してしまう。これら重荷や罪を捨てることができるのは、イエス・キリストに全部預けるしかない。イエスはそのために十字架にかかってくださったのである。

* 「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」(12:2) 信仰はこの方イエス・キリストから始まり、この方で終わる。このイエス・キリストをいつも目標にして、ゴールである天国までこの世を走り抜こう。